

「都路を希望の地に」
それが僕の
夢になりました

さ は ら ゆずる
佐原 禅

NPO法人くらすタ 理事長

昭和50年（1975）、北海道苫小牧市生まれ。

震災後、予備自衛官の仲間と宮城県で週末、ボランティア活動に従事。

長年勤務した警備会社を、東北での仕事を希望し退社。

2013年9月、田村市復興応援隊に就任。2017年、応援隊事業を引き継ぐため、

NPO法人くらすタを立ち上げる。現在、田村市都路町在住。

「東北に行くしかない…」」。そんな思いに突き動かされ、2013年、田村市復興応援隊の一員として、住民の帰還がはじまった都路町^{みやこじまち}にやってきました。最初は毎日が手探り状態。住民の方に認知されてからは、依頼されるまま、草刈りや畑の整備を手伝いました。その後、たくさんのお会いを経て、地域のために何かしたいけれど、その方法が分からない人、最初の一步を踏み出せずにいる人のお手伝いをすることが僕らの仕事になりました。応援隊には、仕事を引き受ける際のルールがあります。「それは声をかけてくれた方自身がやりたいことなのか？」「地域のためになることなのか？」「費用対効果、人対効果が見込めるのか？」「住民だけで完結できるのか？」。主役はあくまで地域の皆さん。だから、僕らがいなくなったら続きそうにないプロジェクトは最初から引き受けません。震災前から過疎化と人口流出が進み、いずれ「消滅可能性都市」になるといわれていた都路町。そこに震災と原発事故、風評被害で大きな打撃を受けました。でも、大きな痛みを受け、上を向くしかなくなった地域だからこそ、できることがある。都路を希望の地にする。この地に住んで7年。それが僕の夢になりました。



都路の情報を紹介する町内誌「いいね！みやこじ」。
応援隊ホームページからも見ることができる